

**\* 大地震の最中、秋田大学で使っていたニコン製 20cm 屈折望遠鏡を収蔵**

アーカイブ室新聞第410号(2010年12月24日)に「萩原雄祐ゆかりの20cm屈折望遠鏡を収蔵」という記事を書いた。この萩原雄祐ゆかりの望遠鏡は宇都宮大学にあったものである。この望遠鏡を納入した業者が、秋田大学に現在は使用されていない同じ望遠鏡があるというので、使用されていないなら日本の天文学のナショナルセンターである国立天文台のアーカイブ室に譲っていただき、展示しようと秋田大学に話を持ちかけたところ、譲っていただけることになり3月11日の大地震の最中到着した。

望遠鏡を積んだトラックが三鷹の国立天文台検収センターに到着した直後に東北関東大地震が起きたのである。1回目の大揺れの後、アーカイブ室に知らせがあり、収蔵場所の天文機器資料館に搬入する頃には余震が何回も続いている時で、トラックから降ろそうとしている時、大地が揺れているのが分かるし、近くの木々がゆさゆさと揺れていた。天文機器資料館はかつての自動光電子午環の建屋の望遠鏡フロアである。クレーンを使うまでもない重量なので運送業者4人が抱えて階段を使って運び入れた。写真1が梱包を解いた望遠鏡である。



写真1 大地震の最中到着したニコン製 20cm 屈折望遠鏡

地震の起きた時には、天文機器資料館の 1 室で学生アルバイトがデータ入力の仕事をしていました。学生が外に出て、天文機器資料館のドームスリットが開いていることに気づき知らせてくれた。天文機器資料館は子午環の観測棟であるから、ドームスリットは東西に開くかまぼこ型のドームである。このドームスリットが地震の揺れで揺さぶられ、20~30cm ばかり開いたのである。電源に異常がないことを確かめて、スリットを閉じると、揺さぶられ、以前より収まりがよくなりきちんとしまったように思われた。

この望遠鏡は、2011 年 3 月 11 日の大地震の日に搬入されたと長く言い伝えられることであろう。

なにしろ、搬入の作業が余震で大地が揺れているさなかのことであり、搬入の様子を写真に撮ることも、ドームスリットが開いた現状写真も取り損ねたことが残念である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp